

立神峡だより

RKK熊本放送で3月10日午後8時から立神峡里地屋敷五右衛門風呂が放送

2月11日建国記念日の日、ここ立神峡公園里地屋敷において、RKKの取材を受けました。

今回の取材は、五右衛門風呂特集という事で、白羽の矢が立ちました。皆様も、ご承知のように、里地屋敷には特別の大きな五右衛門風呂があります。八代出身のタレントで「まさやん」が風呂に入るシーンを撮影するという設定。しかしながら、最初から、火おこしからスタート。火をつける場面は、氷川の火打石で、悪戦苦闘しながらの火おこしで、とてもユニークなキャラが笑いを誘いました。

約1時間後、風呂が沸き入浴シーンは赤いふんどしで…。後は、当日放送をお楽しみ下さい。



春の訪れを告げる梅の花が氷川の川面を彩る立神峡

冬の寒い季節が終わり、やがて春を迎える立神峡。その氷川の流れに沿い、梅の花が見事に今年も花をつけてくれました。

紅梅やピンク・白などの花が川の流れとマッチして川面を彩る風景は対岸からの眺めは見事なものです。

花が終わると青葉となり、沢山の梅の実を付けることでしょう。今年は、この梅の実を取り、幼木として育て立神峡の岸壁に根づかせられないものかと思案中。冬の岸壁は色合いが少なく侘しい感じがするので、そこに色とりどりの梅の花が咲き乱れると正に桃源郷の世界に浸れるのではと思いつつ、今年も如何に立神峡の魅力を引き出すことが出来るかと気を揉んでいます。皆様も一度見に来てください。



新戦力の紹介 最新式の薪割り機を導入しました

今回、最新式の薪割り機を導入し、作業効率の向上を目指します。この薪割り機は重量は185kg・粉砕力は27t・ガソリンエンジンで油圧の力で直径50cmの丸太を軽々と粉砕する優れもの。また、垂直や水平にして長さ65cmの丸太を油圧レバーの操作一つで薪割りが可能で、見る見るうちに薪の束が出来てしまいます。近年のキャンプブームで薪の需要はうなぎ上り。薪ストーブを使用している人にはもってこいの機械です。興味のある人は是非、立神峡に足をお運びください。



タケノコ堀が始まります

春の風物詩の一つ。タケノコ堀を今年もやります。資材等は当方で準備します。

大人300円・小学生100円・幼児無料とし、タケノコ1人2本迄。収穫できない場合は、それまでです。子供さんたちとの収穫体験を通じて、里山への関心と情操教育に繋げて見られては如何ですか？3月10日以降、逐次受け入れ可能です。



【お問い合わせ先】 立神峡公園管理棟
☎0965-62-1543 FAX0965-62-1546 (8:30~17:30 火曜定休日)



定住自立圏イベント情報 ~八代市~

「豪雨災害 復興祈願」 第27回九州国際スリーデーマーチ2021

申込方法など、詳しくは公式HPをご覧ください。

- ◆日時 5月22日(土)・23日(日)
※雨天決行
- ◆場所 桜十字ホールやつしろ
(やつしろハーモニーホール)

- ◆事前申込 3月15日(月)~4月23日(金)
- ※申込み時に参加費が必要となります。
- ☎九州国際スリーデーマーチ実行委員会
☎0965-33-4132



定住自立圏イベント情報 ~芦北町~

御立岬公園(キャンプ場)

潮の香りと雄大なロケーションを感じられます。道の駅たのうらで新鮮な食材を準備してバーベキューを楽しむのがオススメです。公園内にはカート場や釣りランド、温泉センターなどもあり、1日中楽しめます。

◆テント宿泊利用料(1泊1張あたり)

- 常設：6,000円
- 持込み：2,000円
- バーベキュー台レンタルや、薪・木炭の販売有り。日帰りBBQもできます。

☎御立岬公園 ☎0966-87-0737



町民文化

短歌

来訪の親友らがためにテーブルの椅子の配置を千鳥掛けにする
北野津 宮本 末秋

募 手話奉仕員養成事業の受講者を募集します

手話により聴覚障がいを持っている人へ意思疎通の支援ができる活動者を養成するため、手話奉仕員養成事業の受講者を募集します。

- ◆日程 4月8日~令和4年3月31日 毎週木曜19時~21時
- ◆場所 八代市代陽コミュニティセンター
- ◆参加料 テキスト代7,600円
- ◆申込 事前申込みを3月31日(水)まで福祉課で受付けます。当日申込みは5月13日(木)まで会場受付けます。

☎福祉課 福祉係 ☎0965-52-5852
(一財)熊本県ろう者福祉協会 ☎096-383-5587

俳句

道ゆけば焼き立てパンの匂いする
宮原町は春盛りかな
北野津 井田 道寛

曾孫と並びて腰を伸ばしても
背のびをしても勝てぬ嬉しき
西野津 古崎スエノ

早春のコロナ禍ニュースの心痛に
普通に暮らす幸なりぬ
西野津 古崎 栄子

それは無理女性の地位を高めるは
女性天皇認めぬうちには
西上宮 村内 一誠

町政の熱意溢る、思いやり
マスクの配布有難きかな
吉本 高橋 澄子

緑葉の光輝くすき間より
紅が流れて椿ほ、えむ
上鹿島 前村 俊子

間を開けて北良雀の横並び
北野津 宮本 末秋

落椿一つの銀河減びたり
北野津 井田 道寛

春待ちて京に旅する双六で
西野津 古崎スエノ

春寒の湯舟に染まる柚子の色
西野津 古崎 栄子

阿蘇娘三本咲いて華やがり
西上宮 村内 一誠

カルタ会コロナに取られ泣きの春
吉本 高橋 澄子

川の面は季節浮かべて流れゆく
上鹿島 前村 俊子

考察 中野重治 愛しき者へ

法道寺 本田 花風

政野は十八日朝名古屋につき、二日の間の稽古をして舞台に立ち、二十日には例のウイローお土産に帰つてきます」と十六日付の手紙に書いている。名古屋で妹からの電報を受け取ると予定を急いで急いで帰郷した。

保釈の条件である保釈金は四十円で、政野は手持ちの金のあろうわけもなかった。刻も早くと気はせく。なぜ妹の喜美子がその金の調達に動いていなかったのかと腹をたて、「二尺さしで妹をぶったという。」

中野の「暮れの感想」によると、十二月二十六日夜、豊多摩刑務所を出ている。政野は保証金の工面に走りまわり、やうと金ができて、すでに御用じまいになっている刑務所から夫をだすことができた。

夫妻のこの年の暮れを、「暮れの感想」は簡潔に書いている。

「私は暮れをどうして越したか思い出せない。年明けてからが家財道具を差し押えにやつてきたところをみれば、諸式の払いもどきおつたままで私たちが年の瀬を越した、というよりも、年の瀬のほうで私たちの上を越して行ったのだろう。」

四月からの短い同居生活中、政野は夫を「中野さん」としか呼ばなかったという。そういう妻を「おまえさん」と古女房に対するような親愛をこめて呼ぶ「亭主」に中野はなり、その夫への手紙に、「重治さま」と書き、「中野が、中野が」と無意識のうちに口にするように変わっていった妻がこの年の手紙の行間に息づいている。

中野重治の投獄は、まだ十分に夫婦にならざる時間をもたなかった夫と妻を、より深いところで強い絆をもつ夫婦たらしめることになった。夫婦の結婚の終生の基調は、引き裂かれた新婚七ヶ月間に出来ていったように思う。